

世界津波の日(11月5日)

「世界津波の日」の制定

第3回国連防災世界会議(2015.3)

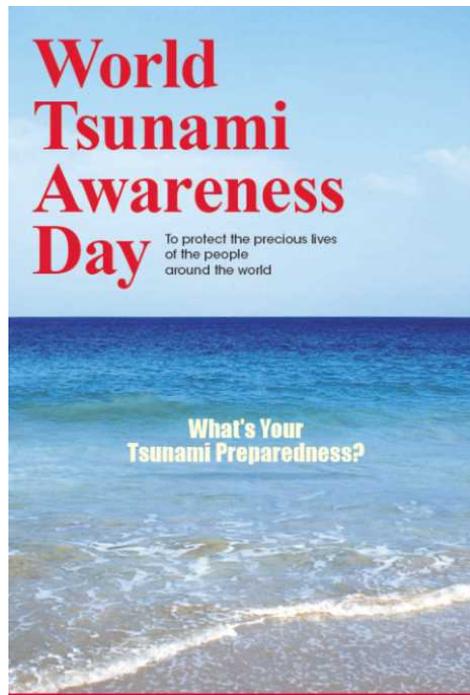
持続可能な開発のための2030アジェンダ(2015.9)



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan



フォローアップ



日本をはじめ142か国が共同提案した『11月5日を「世界津波の日」として制定する決議[※]』が、2015年12月22日、第70回国連総会本会議にて、全会一致で採択。

⇒ 世界各地において、『津波に対する意識向上のための啓発活動』や『津波対策の強化』等の取組を実施中。



第70回国連総会本会議の様子

※1854年11月5日に和歌山県で起きた大津波の際に、村人が自らの収穫した稲むらに火をつけることで早期に警報を発し、避難させたことにより村民の命を救い、被災地のより良い復興に尽力した「稲むらの火」の逸話に由来する。

「世界津波の日」 2018高校生サミット in 和歌山 (和歌山県:2018年10月31~11月1日(予定))

●10月31-11月1日,「『世界津波の日』2018高校生サミットin和歌山」を濱口梧陵生誕の地,和歌山県で開催予定。

(参考)

●次世代を担う子供たちが自然災害について理解を深めることを目的とし,2017年11月に世界26カ国の高校生255人が参加し,沖縄県宜野湾市で「『世界津波の日』2017高校生島サミットin沖縄」を開催。

●会議の成果として「若き津波防災大使ノート」を採択し,高校生たちは,将来各国で防災分野における主導的な役割を担うリーダーとして取り組んでいく決意を表明。



2017年11月の「世界津波の日」2017高校生島サミットin沖縄における集合写真



高校生による発表の様子(宜野湾市)